

学位審査結果報告書

学位申請者氏名 梶田美香

学位論文題目 Association between sensory processing and dental fear among female undergraduates in Japan

審査委員（主査） 安細敏弘



（副査） 鬼塚千絵



（副査） 角館直樹



学位審査結果の要旨

歯科治療に関する恐怖感 (dental fear) は歯科治療の回避を惹起することから口腔内環境を悪化させ、口腔の QOL の低下につながるということが指摘されている。歯科恐怖形成の原因は、歯科治療経験などの外的因子やうつ病、パニック障害等の内的因子が関与していることが報告されているが詳細は不明である。そこで、著者らは、入力された感覚情報を統合し状況に応じて調整する能力、と定義される感覚処理 (Sensory processing) に着目し、「感覚過敏」、「感覚回避」、「低登録」「感覚探求」の4つのパターンの違いと歯科恐怖の関連について検証を行った。

本研究の対象は北九州市内の女子大学生 334 名とし、歯科恐怖に関しては Dental Fear Survey、感覚処理はダンのモデルに基づいた青年感覚プロファイルを用いて質問紙調査を実施した。感覚処理、歯科治療に関する負の経験、ならびに自閉スペクトラム度と不安度が歯科恐怖形成に直接関連するという仮説を立て、共分散構造分析を用いて解析を行った。その結果、「感覚過敏」、「感覚回避」、「低登録」のパターンと負の経験が歯科恐怖に有意に関連しており、適合度も良好であった。一方、自閉スペクトラム度と不安度については歯科恐怖との関連性は認められなかった。

以上の結果より、感覚探求を除く感覚処理パターンは女子学生において歯科恐怖と関連することを示した。偏った感覚処理傾向は内的因子、外的因子と相互作用しながら歯科恐怖を形成し、歯科恐怖症の根源的な素因である可能性が示唆された。

公開審査において、申請者が実験計画の当初から関わり、データ解析ならびに論文作成に貢献していることが確認され、本研究の課題と将来展望に関して申請者からおおむね適切な回答を得た。以上のことから、審査員会では本研究が学位論文として価値あるものと判断した。